

## 瑞龍寺(高岡市)

### ■ 石廟(県指定文化財)

Sekibyō

(Prefecture designated cultural properties)

前田利長、利家、織田信長、  
同室正覚院、織田信忠の分  
骨廟。石廟の中には、宝篋  
院塔がまつられている。



石廟

石廟/富山県指定文化財





富山県指定文化財

# 瑞龍寺石廟

せき びよう

前田利長公は本能寺の変後、織田信長公父子の分骨を迎えてその霊を慰めたと伝えられる。

利長公の菩提寺瑞龍寺を造営した時、開山広山こうざん恕陽じやう禅師が利長公父子も加えて同じ形式の五基を建造したのがこの石廟の由来である。

廟の石材は淡緑色の凝灰石（俗称越前笏谷石）を用い壇上積の基礎の上に立つ切妻型石廟建築である。廟内の宝篋印塔は越前式の月輪装飾を施したもので、越前の国を源流とし、加越能三州に分布している。

石廟は向って右から前田利長公（高岡開祖）前田利家公（加賀藩祖）織田信長公（利長夫人王泉院の父）織田信長公側室織田信忠公（信長公の子息）の五人のもので、中でも利長公のものは壁面に二十五菩薩を刻んだ代表的な優品である。

これら五基の石廟は地方政治史上、又石造建築史上の貴重な資料であるところから、昭和四十五年

三月一日富山県指定文化財史跡に指定された。

右手が前田利長公、左手は前田利家公の石廟



前田利長公の石廟(分骨廟)



宝篋印塔が納まっている



右手から前田利家公、織田信長公、同室正覚院、織田信忠公の石廟(分骨廟)



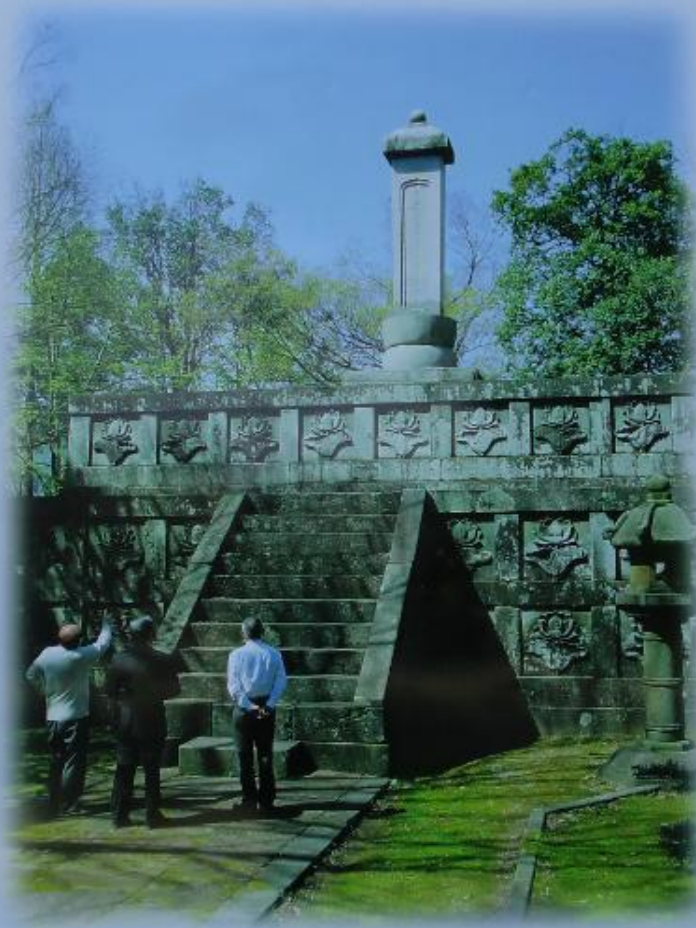


# ❁ 武将では日本最大 ❁

## 高岡の開祖 前田利長公墓所

加賀藩二代藩主・利長公（一五六二〜一六一四）は関野に新しい城を築き、街づくりを進めて「高岡」と命名、この地で他界されました。利長公を敬愛された異母弟の三代藩主・利常公（一五九三〜一六五八）が三十三回忌までに建立された壮大なお墓です。当時は五万余坪（現在は約一万平方メートル）の敷地に墓守寺を配置、墓碑は豪壮な戸室石の基壇を含めて高さ十二メートルの偉容を誇ります。

国宝瑞龍寺・八丁道とともに先代藩主への厚い思慕の念と百万石の力量で造りあげた石の建造物として高い評価を得ております。



利長公が十四年間、居城された二上山の守山城から瑞龍寺は真南に位置し、その延長線は利家・利長親子の出身地・名古屋市荒子を指す。また守山城と墓所の線上に高岡城が位置し、その延長線は徳川家康公の岡崎城を指している。このため瑞龍寺の基軸に対した八丁道は北へ七度偏らせ、墓所の基軸と八丁道は直角に交差させるように配慮されている。

ふるさとへの厚い想いと当時の複雑な情勢の中で生き残り、お家安泰を確立した利長・利常両公の想いがかいま見えるようでもあります。

石燈籠もこんなに大きい



子供の背丈と比べてほしい



御廟である墳墓



石塔上までは約12メートルあるという



国指定史跡 加賀藩主前田家墓所

# 前田利長墓所

平成二十一年二月十二日指定

加賀藩主前田家墓所は、高岡市の前田利長墓所と金沢市の野田山前田家墓所から成る近世大名家の墓所です。

前田利長墓所は、慶長十九年（一六一四年）に五十三歳で生涯を閉じた利長の三十三回忌にあたり、三代利常が造営したものです。近世段階の墓域の総面積は、約三万三千㎡（一万坪）と広大で、大名個人墓所としては国内屈指の規模を誇ります。二重の堀で囲まれた墓域中心部には、幅十五五m、高さ五・〇m（石塔上までは十一・九m）の御廟Ⅱ墳墓があり、その立面は狩野探幽下絵と伝承される百三十枚もの蓮華図文様が彫刻され、荘厳な印象を与えます。

戸室石で全面を覆う外観は、方形土盛り墳墓形式の前田家墓所とは異なるものです。しかし、学術調査の結果、内部の構造は歴代藩主墓同様の土盛り墳墓であることが判明しました。

また、堀や土塁、石燈籠の配置等は正方形区画を意図しており、初代利家墓（幅二十m、高さ五・七m）を上回らない規模で築いています。これは、前田家墓所の造営様式を踏襲したものであり、我が国の近世大名墓所のあり方を知る上で欠かすことのできない史跡です。



高岡市教育委員会

